

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



The Topps Company

その後の佐々木やイチロー、松坂、新庄もある意味で凄かったが、個人的には野茂以上の存在の選手はいないと思っている。

忘れもしないのは、1995年のメジャーリーグのオールスターゲーム。7月11日にテキサス・レンジャーズの本拠地「ザ・ボールパーク・イン・アーリントン」で行われた66回目のオールスターゲームだが、同年海を渡って、村上雅則以来31年ぶり2人目の日本人メジャーリーガーとなった野茂は、前半戦の活躍によってこのオールスター・ゲームに初選出。もちろん、日本人メジャーリーガー初。しかも、オールスターに選ばれただけでなく、先発投手を務めて、当時のメジャー最高の投手のひとりランディ・ジョンソンと投げ合って、2イニングを1安打無失点に抑えた。

この試合は日中に行なわれたが、当日はウェイターの仕事はディナーからだったため、試合開始前に近所のスポーツバーに入って、オールスターゲームを映し出す大きなテレビが目の前にあるカウンターの席を陣取った。試合開始前から、バーにいる外国人客もビールなどを飲んで賑やかだったのを覚えているが、事前に野茂の先発が発表されていたこともあって、興奮と妙な緊張感でいっぱいだった。大好きなコロナを頼んで、今か今かと試合開始を待っていた。

そして、いよいよ放送開始。選手一人一人がコールされる中、野茂の名前が呼ばれた時は本当に鳥肌が立った。そして、アメリカ国家斉唱はテキサス州出身のシンガーソングライター、ライル・ラヴェット。ただでさえ気持ちを高揚させるアメリカ国家なのに、国家が流れる中で野茂の姿がスクリーンに映ると感動を超えて恥ずかしながらちょっと泣いてしまった…。自分が同じ日本人だと分かったのだろう…隣のカウンターに座っていた見知らぬ赤ら顔の外人のおじさんが笑顔で肩を叩いてくれたのを覚えている。続く、始球式には偉大な投手で現在ダルビッシュが所属するレンジャーズのオーナーでもあるノーラン・ライアンが登場。そして、試合開始前最後のセレモニーで、現地のリトルリーグの子供達と手をかわす少し恥ずかしそうな野茂の姿も印象深かった。2イニングと短い間だったが、この伝説の場面にニューヨークのバーで立ち会えたことは最高の気分だった。

2007年にシアトルのセーフコ・フィールドでイチローと松坂の初対決の試合も目の前で見ることができ、桑田がメジャーで投げた試合も感動したが、野茂が先発で投げたこの時のオールスターゲームの感動を超えるシーンには未だに出会っていない。

野茂といえば、当時ドジャースでバッテリーを組んでいたマイク・ピアッツァも懐かしいが、ピアッツァは2008年5月に現役引退を発表。奇しくも野茂が現役引退を表明したのとほぼ同時期だが、ピアッツァは2009ワールド・ベースボール・クラシックに向けてイタリア代表のコーチに就任。その後も第二の母国イタリアでヨーロッパ野球の振興に尽力しているようだ。

《 Nomo 》

2012年7月24日(米国現地時間2012年7月23日)米大リーグのイチロー選手が、11年半所属したシアトル・マリナーズからニューヨーク・ヤンキースへトレードで移籍したというニュースに衝撃を受けた人も多いだろう。

今年はダルビッシュ有がポストティング・システムで入団したテキサス・レンジャーズで活躍し、惜しくも試合には出れなかったが、最終投票で日本人選手として唯一オールスターゲームに選出されたことも記憶に新しい。

これまで計50人の日本人メジャーリーガーが誕生しており、自分がニューヨークで生活していた1993~97年の間には、全てピッチャーだが、ドジャースの野茂、マリナーズの(マック)鈴木と長谷川、メッツの柏田、ヤンキースの伊良部が活躍していた。そんな中でも、一番思い出深いのはやはり野茂だ。